令和４年度第３回在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議報告書

１．開催日時　令和５年２月２日（木）　午後２時から４時まで
２．開催場所　市役所東庁舎１階 会議室１０１
３．出 席 者　森谷委員、布施委員、近藤委員、鈴木委員、土橋委員、久米委員
鵜澤委員、岩崎委員、永井委員（代理佐藤氏）、平野委員　欠席：福岡委員
事 務 局　高齢者福祉課　竹内課長、村田係長、加藤、栗原、今井　健康課　松岡課長
白井駅前地域包括支援センター 櫻田、西白井駅前地域包括支援センター 大澤
４．傍 聴 者　４名
５．次　　第
・第３回白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議
議　題
（１）課題別ワーキングの取り組み
（２）在宅医療後方支援制度の実績報告
（３）徘徊保護高齢者への対応実績報
（４）認知症初期集中支援チーム事業事例集について
（５）次年度の在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業の実施方針について
（６）意見交換「認知症高齢者への地域の見守り体制について」

６．議　　事　以下の概要のとおり

事務局	○　第３回白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議
会長	会長より、あいさつがなされる。 議題１　課題別ワーキングの取り組みついて議題とする。 事務局より説明を求める。
事務局	事務局より全体について説明
委員	救急医療情報シートにおいては、救急現場で確認すると、古い情報がそのままで書き換えられていないことが多い。介護施設では、救急要請で行くと、延命するかの意向を確認していない施設が多く、現場についたあとに、延命するかどうかは家族と救急隊で確認してほしいといわれることがある。家族に再確認すると時間がかかってしまうので救命のリスクも考えられる。以前に比べたら、延命処置について確認している施設が多くなってきている。救急医療情報シートに延命についてなどのことも含めて書いてあるとよいと思う。
会長	災害ワーキングの取り組みの中で、白井市は地盤が弱いとか水害が起こるなど場所はあるのか。
事務局	あまり弱い地盤のところはないと聞いている。今回はギリギリ土砂災害警戒区域に住んでいる方の自宅に訪問したが、今まで災害にあったことはないと聞いている。

会長	議題２　在宅医療後方支援制度の実績報告議題とする。 事務局より説明を求める。
事務局	事務局より全体について説明
会長	今年度は、在宅医療後方支援制度の利用については人数が減っているが、具合が悪くなる人がいなかったと理解してほしい。今年度については、急変などは少なかった。急変時、システムを使うことでスムーズに入院することができるためありがたいと思っている。医療機関と在宅診療との間で情報を共有していくことが重要だと感じている。今後も医師会を通じて呼びかけていこうと思っている。
委員	今年度においては症例数が減ったと思うが波があると思う。３病院でやっているので、ベッドが空いていないとか、発熱をしている人など受け入れられないこともあった。この制度を続けていくことが大事だと感じている。 バイタルリンクでは、バイタルリンク上にのせる書類についてはその人の状態がわかるように更新しなければならない問題がある。その書類を見て、担当の医師がその人の状態がわかるのでスムーズに受け入れができるのでよいと思う。後方支援制度以外にも、自分の病院での訪問診療時にバイタルリンクを利用できればよいと思う。
会長	議題３　徘徊保護高齢者への対応実績報告を議題とする。 事務局より説明を求める。
事務局	事務局より全体について説明 （質疑なし）
会長	議題４　認知症初期集中支援チーム事業事例集を議題とする。 事務局より説明を求める。
事務局	事務局より全体について説明
会長	以前、医師会で認知症初期集中支援チームを周知したことはあるが、このようなチームがあるということを繰り返し伝えていくことが必要だと思っている。
委員	歯科医師会も全く集まりがない状況である。ＦＡＸでのやりとりくらいしかできない。歯科医師会では認知症についてはあまり関わることがないので受け身になってしまうことがあると感じている。
委員	認知症初期集中支援チームのことは知っているが、地域の方は知らないのではないかと思う。ケアマネや事業所が介入していればつなげられるのではないか。訪問看護をしていると、独居で認知症の方の場合は対応が難しい。独居の方はサービスなどを手厚くしていかないといけない。食事が作れない、掃除ができないなど難しい場面がたくさんある。地域は違うが夫婦で２人とも認知症があるケースがいる。時々サービスの拒否があり、介入が難しいこともあるが、知った顔のスタッフが関わることで拒否しなかったりすることもあった。いろいろなところからサポートするには認知症初期集中支援チームは必要だと思う。関わる人はケアマネがついている方がほとんどだが、認知症の初期となると認知症を理解していない人が多いのではないか。

事務局	ケアマネが、認知症のことで、何か困ったことがあれば地域包括を紹介することにしている。そこから、困難事例については認知症初期集中支援チームにつながってきている。初期となっているが、サービスや医療につながらない人の支援も多い。ケアマネがついていて困難なケースでも一緒に動くこともできる。ぜひ、活用してほしい。
会長	認知症初期集中支援チームという名称だけで拒否することもあり。名称を変えるというのもありかもしれない。 ケアマネの間では周知できていると感じている。名前の変更というのはよいと思う。どこまでのケースを相談していいのかと迷っている人もいるのではないか。
委員	認知症初期集中支援チームの活用方法、上手に使ってもらうための方法などを周知していただければと思う。
会長	議題５　次年度の在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業の実施方針を議題とする。 事務局より説明を求める。
事務局	事務局より説明 質疑なし
会長	議題６　意見交換「認知症高齢者への地域の見守り体制について」を議題とする。 事務局より説明を求める。
事務局	事務局より意見交換の内容について説明。 「認知症高齢者への地域の見守り体制について」をテーマにして自分のことや家族のことをイメージしながら発言を求めた。
会長	１年半前から自分の親が認知症の症状が出始めてきた。銀行からお金をおろしてきて、その後すぐにお金がないと呼び出されそれが何度か続いた。最近、介護保険の申請をしたが、足腰は丈夫、身なりも受け答えも問題がなかったためか、要支援１となった。介護保険の評価として、認知症についても考慮をしているとは思うが、思ったより軽い認定になり基準について考えてさせられた。色々な手続きにおいて、本人の同意が必要なことが条件になっていることが多いが、気分にムラがあったり、拒否があったりするので、そのようなことを考慮しながら物事を進めていかなければ何も進まないと感じている。今は、地元の高齢者同士のつながりがとても大事になってくる。毎日、朝のラジオ体操に行っているので、高齢者同士のつながりの中で認知症などについてどこに相談すればよいのかなどの周知啓発ができるとよいと思う。
委員	医師会でも認知症関係のセミナーが増えてきたようだ。医師も勉強する必要があると思う。地域にある認知症カフェなどの活用しお互いの悩みを解決する方法もある。見守りについては、近所の方が気づくことが大事になってくる。地域で見守ることが大事。認知症を理解していないとダメなので、市民への啓発活動が重要になってくる。見守りのような訪問の事業があるとよいかと思う。徘徊につい

	ては、色々な取り組みがあるようだ。今はいろいろなシステムの活用で、場所を確認でき徘徊が防げるのではないかと思う。
委員	薬局に、認知症の関連の冊子があるが、それがすぐになくなってしまうので関心がある人が多いと感じる。自分は、家族同士で自分たちの位置情報をシェアしている。認知症の徘徊に対して有用なシステムができるとよいと思う。
委員	地域全体で子どもからお年寄りまでを見守っていくことを考えていくことが大切である。また、地域と関わってほしいと地域とつなげていきたい人がいたとしても、地域につながることを嫌がる人もいるので、もともとの知り合いの人が何かあった時に声をかけてくれるとスムーズだと思う。見守り、声をかけてくれる人が地域にいるとよいと思う。自分も地域に目を向けられていないので、仕事の移動時間の中で何かできることがあればいいと考えている。
委員	自分がもし認知症になったらと考えると、気軽に認知症について相談できる場所があればいいなと思っている。友達にも気軽に相談できたりする環境になるとよい。また、認知症の人でもできる仕事などの仕組みづくり、環境があるとよい。認知症の方が徘徊した場合、できるだけ市外にでないように、市内で発見ができるようになっていけばよいと思う。
委員	認知症の方が、市外から白井市内に来て救急要請される場合があり、身元がわからないケースもある。やはり徘徊においても市外に行かせない取り組みが重要かなと思う。小学生が認知症の人を保護したというニュースあり、声かけが大事だと思う。最近、認知症の方で家族がいない時間帯に自宅で動けなくなり、重度の低体温で救急搬送されるケースあり。地域の見守りや何かカメラでの見守りもあるとよいと思う。高齢者同士でのコミュニティづくりをするのも大事だと思う。
委員	認知症の方が徘徊しているという情報を知っているということが前提でないと徘徊高齢者を探すことができない。防災無線でしか知ることができないが、警察で行っている安全、安心メールというものがある。それに登録すると徘徊だけでなく、災害がどこで起こっているかなどが確認できる。なかなか普及が進まないのでぜひ周知してほしい。白井市内でも認知症の方が、徘徊して亡くなって発見されたケースあり、夜に行方不明になってしまい、夜は防災無線が流せない状況だった。また、雨だったので警察犬が出せなかった。３日目で近隣の捜索はうちきりという流れになっている。その後一週間くらいたってから発見されたので、夜間でも何かできる体制があるとよいと感じている。
委員	関わる中で、認知症で車に乗っている人がおり、危ないと感じている。また、認知症の人は毎日買い物に行きたくなる人が多く、たくさん買ってきて冷蔵庫の中で食べ物を腐らせてしまっている人がいる。また、この間、話し相手になってほしいという依頼がきた。傾聴ボランティアは１か月に１回くらいしかきてくれないので、もっと頻繁に利用できるものがあるとありがたい。
委員	知人が徘徊してしまい、仕事で外を訪問している時に探してほしいと言われた。家族はだれでもいいから探してほしいという気持ちで頼んできたと思う。介護などの訪問系で外をまわっている人たちに探してもらえるような仕組みがあるとよい。そのような仕組みができれば多くの目で探すことができると思った。

委員	歯科医は、認知症の人に直接関わることが少ない。歯科医は外に出る仕事ではないので難しいとは思う。見守りする意欲はあるので、きっかけがあればできると思う。職域としてはできる範囲でやっていきたい。
白井駅前包括	身近に相談者がいると安心すると思う。最近は、周りに住む人たちがどのように支援していけばよいかと話し合いをする機会を設けている。しかし、家族からは地域の人に迷惑をかけたくないから、施設や家族が引き取るという方も多い。地域の方や家族と話をすることで安心することもある。
西白井駅前包括	認知症の相談は多い。包括のチラシにも初期集中支援チームも紹介しており、気づいている市民もいる。初期集中支援チームのキャッチフレーズがあるとよいのではないか。徘徊する方は、特に夕方に昔のことを思い出し、出かけることが多い。今の徘徊探知機のようなものは形が大きいものが多いので、簡単に探せるシステムがあるとよい。
事務局	認知症を理解してくれる人、受け止めてくれる人、気軽に相談ができるところなどを皆さんと連携し周知啓発できればと思う。 その他 　他に意見はあるか。 （意見なし） 課長挨拶 以上で、本日の会議を終了する。